# 令和４年度草津市スポーツ推進審議会　議事要旨

**■日時**：
令和４年８月２３日（火）１８時３０分～２０時４５分

**■場所**：
市役所２階　特大会議室

**■出席委員**：
岡本委員、京近委員、中野委員、加藤委員、嘉悦委員、
田中委員、粟原委員

**■欠席委員**：
小傳良委員、竹田委員、山口委員

**■事務局**：
藤田教育長、増田教育部長、田中副部長
スポーツ推進課　宮田副部長兼課長、井口係長、山本主事
学校教育課　山本主査
スポーツ大会推進室　原口主査

**■傍聴者**：
０名

## １　開会

【藤田教育長】
本日は、何かとお忙しい中、草津市スポーツ推進審議会に御出席賜りまして誠にありがとうございます。
日ごろから委員の皆様には、本市の教育行政、特にスポーツ推進に格別の御支援と御協力をいただいておりますことを厚くお礼申しあげます。
さて、本市のスポーツ推進計画につきましては、皆様方の御協力を得まして、令和３年度から第２期計画に取り組んでいるところです。しかしこの間、新型コロナ感染症の影響もあり、社会経済活動が大きく制約を受け、市や地域、そして学校などにおいても、様々な対策や工夫を凝らしたなかで、できるかぎりのスポーツ推進に取り組んでいるところです。まだまだこの収束が見通せない中ですので、今後も様々な対策や工夫を凝らしての推進に取り組んでまいります。皆様方のご協力をよろしくお願いします。
さて、昨今のスポーツを取り巻く状況ですが、コロナ禍の影響もあり、本市においても子どもたちの体力低下が課題となっております。また、中学校の休日の部活動を地域移行するという提言が国において出されており、最近の新聞紙上を賑わせています。この記事を読んでみますと、将来にわたってスポーツを楽しむ環境が必要である、生涯ス

ポーツとも関連付けた進め方をするというようなことも表明をされている状況です。
　また、令和７年度には、国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の開催が正式決定となりました。現在市では、これらに備えて市立プールを建設中です。この大会を契機のひとつとしてより一層のスポーツ推進を図っていくことも、大変重要であると考えています。市といたしましても、このようなスポーツを取り巻く状況変化をしっかり見据えながら、本市のスポーツ推進計画の基本理念でもある『「する」「みる」「支える」「知る」“ＡＬＬくさつ”でつなぐ健幸スポーツのまち』の実現に向けまして、取り組みを進めていく考えですので、当審議会の委員の皆様におかれましても、引き続きお力添えを賜りますようよろしくお願い申し上げまして、開会にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

## ２．審議案件

（１）令和２年度草津市スポーツ推進計画の点検・評価について

　事務局が、資料２に基づき説明。

【委員長】
　皆様から質問等いかがか。
　【資料 2】評価基準について少し補足します。冒頭で説明があった通り、コロナ禍での活動ということで、結果がかなり落ち込んでおり、そこで評価をどうするかというところで、取り組み・準備してきた過程は大事にすべきということから、過程をしっかりとし、準備をしたというところについては、評価をしようと考えている。
　数字として結果は出てこなかったが、準備したということについてそれなりの評価をするということで、この基準を設けた。事務局にスポーツ以外の推進審議会でどのような評価をしたかという調査をしてもらい、そのあたりも参考にしてのこと。

　事務局が、資料３に基づき説明。

【委員長】
　それではまず、基本方針１の子どもの体力向上についてご質問ご意見等いかがか。

【委員】
　子供の体力向上というところで、小学校中心で評価をしていただいているが、やはりコロナの関係で体育の授業もかなり制限され、子ども達自身も、外に出て遊んだり動いたりとかいう部分がかなり制限されていたと感じる。

そういった中で、体力テストの結果が令和３年度は全国平均より下がってしまったという現状があり、令和４～５年度は頑張っていかないといけないという話はしている。ただし、未だコロナ禍であり、学校としては工夫等しながら外でマスクを外して授業もしているが、子ども達自身も気にしている子が多く、なかなかコロナ前のような状況にはできず苦労している現状。

【委員長】
小学生女子の体力が県平均よりも劣る原因について、学校関係者では特別な理由があるなどお考えをお聞かせ願いたい。

【委員】
感覚的ではあるが、例えば野球とかサッカーとか、そういうスポーツを目指している子どもが、男子がやはり多い状況があり、女子についてはメジャーといわれるスポーツがバスケットボールやバレーボールなどはあるものの少ないと感じる。やはりテレビなどの影響もあるのかと感じる。体育の授業は、男女とも一生懸命やっている。

【委員長】
第１期計画のときから、特に小学生女子の体力の低さが課題で、逆に中学校女子は全国平均より上の状況。この理由が、はっきりせず、次の施策に反映するためにも、この点を課題として検討してもいいのではないかと感じる。
また、小学校にばかり、問題を預けるのではなく、もう少どんなプログラムを入れていけばいいのか等検討した方がいいのではないかと考えるがいかがか。

【委員】
小学校側としては、小学校授業の中で、もっと体力を延ばす取り組みを組み込んでいくというのは少し難しいかと感じる。

【委員長】
そうだと感じる。小学生の体力測定の結果が高い地域を模して、早朝５分間体操のようなプログラムを取り入れるという話題が第１期計画の際にも出ていたが、都心部ではそれよりも漢字ドリルをやってほしいといった要望がでてくるといった話もある。小学校の授業の中でやるということよりも、遊びの中や家へ帰ってからできるものなど、例えばプログラム提供なども必要かとも思う。

【委員長】
他はいかがか。

【委員】
子どもの体力の面では、年々二極化が進んおり、運動が好きな子と嫌いな子がはっきりし、よりその差が開いていっているように感じる。

【委員長】
そういう意味では、運動好きになるためのそういったプログラムが必要かとも思う。また、プログラム提供ばかりでなく、大学と連携してなんらかの調査も必要ではないか。
それでは、基本方針２の生涯スポーツの推進についてご意見いかがか。

【委員】
新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、スポーツ推進委員の活動のひとつである歩こう会が思うようにできなかった。下見はできるが、当日の中止が多い状況で回数が伸び悩んだ。今年は滋賀県の良いところを紹介しようというテーマで、人込みを避けできるだけ自然を感じてもらえるようなコースを設定し、徐々に参加者が回復しているところ。最近では７０～８０人の規模で開催できているところで、頑張っている。

【委員長】
徐々に回復基調にあるということで、コロナ禍が落ち着いてくるとさらに回復していくということであまり心配する必要はないと受け取る。
参加者の傾向や年齢層はいかがか。

【委員】
年齢層は高い傾向だが、孫が来ることもあり、親子での参加もある。またＪＲの宣伝を見て県外からも参加がある状況。

【委員長】
他はいかがか。

【委員】
私の属する総合型地域スポーツクラブでも、参加者は高齢者と子どもということで二分化しており、中間層というのが極端に少ない。我々のクラブでは高齢者のボランティアがクラブの活動の大部分を支えていることから、車の運転など危険であるという理由から夜間の教室運営を避け、日中に多くの教室を行っている。そのため働き世代でいうと主婦の方が少しと、中間層が極端に少ない現状となっている。

【委員長】

これは草津市だけのことでなく全国的な事例である。
特に働き手のところの男性がその傾向が強い。そのため、この分野の考え方としてスポーツイベント実施回数やイベントへの参加者という指標や観点にこだわるのではなく、日頃ちょっとしたところで体を動かすとか、たとえばちょっとスクワットを１日に何回しますといったように、軽運動を実施するようなスポーツに対する考え方や意識も変えていかなければならないのではないか。
それでは他に各委員からいかがか。

【委員】
最近では、親子が外に出ているのを見ることが少なく、コロナ禍であって、ゲームであるとか勉強であるといった選択肢を選ばれるケースもあるように思う。
体育振興会でも各学区で皆が楽しみにしているので、マスクなどの対策をして運動会の開催準備をしているが、一方でやはり感染者が出るとその団体の責任にもなりかねないことから、開催の判断が非常に難しい。チャレンジスポーツデーについても今検討しており、学区の中ではやりたいという意見が多くあるが、毎日１００人～３００人の感染者が出る草津市の状況を考えると、中止という選択肢になるように思う。また、各家庭の考え方も多様化しており、昨今では熱中症の問題などもあり、小学校を訪れてもやはり外に出る子どもが少なく感じる。スポ少に入るような子はいいにしても、そうでなければ体力低下につながっていくというのはうなずける話である。

【委員長】
今現在、市の新型コロナウイルス感染症対策にかかる指針等はあるか。

【事務局】
市としては、特にコロナ禍を理由にイベント等の中止を強制するまでの基準はない。実施のガイドラインなどは国から示されている。

【委員長】
高校野球はこの夏超満員の中、大会が行われた。大学スポーツにおいても、昨年の無観客から今年は有観客で行われており、今までは、一つのチームで感染者が出たら、もうそのチームは出場停止となっていたが、今年からはルールが変わり陽性者と濃厚接触者のみ出場停止というようにだいぶ基準が変化してきている。最近では、ワクチン３回接種していても感染する事例もあり難しい状況もあるが、オリンピックも開催し、これ以上取り組みは止められないだろうということで、実施はしていくとそういった方向だと感じている。
それでは、他にいかがか。

【委員】

スポーツ振興とは違うが、健康推進委員の関わる事業として離乳食レストラン等では参加者数の制限や試食をなくすなどコロナ禍で工夫しながらできる範囲の活動を実施している。また高齢者向けの食事のメニューを考案するなどの活動も行っているが、コロナ禍なので直接赴いて調理実習をするというよりは、ホームページや広報誌等を活用した活動をしている。

【委員長】

他にないようであれば次の基本方針３の競技スポーツの推進について、ご意見等いかがか。

【事務局】

中学校体育連盟不在のため事務局より報告します。

草津市でも検討を始めているものの、草津市は県内でも生徒数が多く、運動部加入率は７割弱、活動部活動数も各校 10 前後あるところで、これをいきなり地域に任せるということに悩んでいる。どこまでを地域で担っていただけるのかなど、検討組織を作って、実態や生徒の意識調査などから始めようとしているところ。

また今後、都道府県が推進計画をつくることになっていることから、それを参考に市のほうでも推進計画を策定するとともに、各団体にご協力いただきながら人材の確保に努めていく必要があると考えている。

【委員長】

総合型地域スポーツクラブでは、例えば、ある種目について面倒見てほしいと言われた場合、どう考えるか。

【委員】

中学生まで指導できる有資格者をコーチにすると謝金が多く必要になることから、会費を上げざるを得なくなり、それによる会員減少も想定されることから、クラブ自体の運営が大変になることを危惧しておりなかなか踏み出せない。

ただ、やはり学校で指導をするにはそれなりの有資格者でないといけないのではないかと考えている。また、平日と休日の指導者が違うという点についても、指導方針にずれが生じ生徒が困惑するなど技術向上の面からあまり望ましくないのではないか。

【委員長】

ある都道府県では、スポーツ少年団に高校生まで指導できるかといった問いかけも行

っているようだが、さすがにそれは厳しく、やはり有資格者のところが課題になっている。

話は変わり、25 ページの中ほどスポーツ協会の活動の活性化等について、タイトルは国民スポーツ大会に向けた選手の発掘育成となっているにもかかわらず、計画および評価の欄には教室への参加者を目標としており、計画とタイトルがあっておらず文言整理が必要と感じている。

また、国民スポーツ大会の少年の部の参加者は高校生。滋賀県は、全県１学区制であることから、草津市の高校であっても草津市民とは限らず、そういう意味では滋賀県全域の選手の発掘育成を１市のスポーツ協会が背負うというのは、負担が大きく、話をしていかないといけないところかと感じる。

それから、先ほど（仮称）草津市立プールのご紹介があったが、実は私がお願いしたところ。プールの事業として健康増進の側面と競技者育成の二つがあるが、特にこの競技者育成の部分が基本方針３に将来的にかかわってくると考えている。新しくできる飛び込み用のプールは、365 日温水で動き続ける飛び込みプールは近畿圏ではほとんどないので、ここは他に自慢できる点である。これらを活用し小学生のころから選手育成をしっかりしていくことによって、将来ここから大橋悠依選手のようにオリンピックで活躍する選手が出てくる可能性がある。ＰＦＩ形式で事業を進めているので、強制するような意見は言えないものの、審議会としても、何らかの意見は出してもいいかと考え、皆さんともイメージを共有したく紹介をおねがいした。

また、中高年のスポーツにおいても計画上、今はウォーキングというキーワードが出てきているが、将来的には水泳というキーワードが出てくることも想定される。

小学校はプールの在り方についてどんな状況か。

【委員】

学校のプールが老朽化している現状もあり、こういったプールを授業でも利用できるのはありがたい。また専門家の方にコーチをしてもらえる点もありがたいが、プールへの移動手段が一番の課題となっている。

【委員長】

確かにバスをどう配車できるかなどは課題である。

姫路市が姫路駅近くに大きなスポーツ施設を建設予定で、そこにスポットプールがＰＦＩ形式により予定されている。ここでは、365 日稼働となっており、冬でも水泳授業をするということで提案に盛り込まれ事業が進んでいるといった事例もある。

続いて、基本方針４スポーツ環境の充実についてご意見いかがか。

【委員】
国スポに向けた総合体育館の床研磨工事と、雨漏りに対する屋根の補修工事のために工事期間を７月から来年の１月末までとされているが、もっと短くならないのか。体育館の数が少ないのだから、休館日を開館するなどの措置ができないか。

【事務局】
工期については、雨漏りを確実に止めることを条件にできるだけ短くした結果のため御理解いただきたい。また、休館日の対応については、ＹＭＩＴアリーナとふれあい体育館の休館日を開館し対策している。

【委員】
体育施設の人口に対する、面積は他市町と比べてどうか。

【事務局】
詳しい数字を把握しているわけではないが、草津市は合併しておらず、どうしても合併した市町と比べると一人当たりの床面積は小さくなるかとは思う。

【委員長】
やはり施設に対する利用ニーズが大きいということを確認できる。
他いかがか。
施設のオンライン予約について、新しいプールとの連携というのも考えているか。

【事務局】
まだオンライン予約システムについては内容を検討中の段階で、現状では決まったものはない。

【委員長】
スポーツ環境の充実という意味ではここは非常に大切となる。
また、情報発信について、例えばＹＭＩＴアリーナのホームページ見ていても、情報提供が少ない。アクセス数を増やすためには、例えばこんなプログラムを家でやってみませんかといった情報提供を各施設のページで発信していくような、そういう発想が今後必要になると思う。スポーツ協会とも連携しながら、少しあり方を議論はしていくべきではないか。30 代から 50 代のスポーツ実施率を上げていくためにも、そういった何らかの工夫が必要ではないかと思っている。また、評価尺度としても、オンラインの申し込み数だけでなく、何か他の尺度もあってもいいのではないかと考える。

それでは、最後に基本方針５スポーツによるまちの活性化についてご意見いかがか。

【委員】
先日チラシを見かけたくさつランフェスティバルは、老若男女が参加できるとてもいいイベントなのでもっとＰＲしたらいいと感じた。
また、コロナ禍でやりやすい運動として、ランニングがあると思うが、草津市には夜でも走りやすい場所が少ないと感じる。以前京都に住んでいたことがあり、二条城の周りにはたくさんのランナーが夜に集まっていたのを覚えており、こういった場所が草津にもあると働き世代の運動実施率も上がるのではないか。

【委員長】
京都は鴨川や御所、二条城があるが、ほかの場所は道が傾いているところが多く、そういった意味では草津市は走るのに適した道が多いのかもしれない。ウォーキングマップだけでなくランニングマップも更新していくともっと実施率は上がる可能性がある。
他に意見がないようなら、少し私からお話を。
国民スポーツ大会終了後も、それで終わってしまうことなくそこから草津市が盛り上がるような取り組みを皆で考えていけたらなというふうに思う。秋田県の能代という地域では、能代工業が強かったということでバスケットボールのまちとして推している。
また、福井県にもホッケーの町というのがあり、合宿誘致を頑張っている。施設が整備されることで、全国から人が集まる仕組みがある。スポーツによるまちの活性化ということで、先ほど飛び込みの話が出たが、飛び込みというのは競技者でない人が使えばけがをするので、通常は競技者が使う。そして施設が少ないので、充実した設備であれば全国から人が集まってくることが想定される。これを活かして何か草津市の強みにならないか、本審議会で決定すべきことではないかもしれないが、この審議会での意見を別の会へもっていってもいいのかと、国スポ後も見据えてそんなことを考えている。
他にご意見いかがか。

【委員】
草津市としては立命館大学などで活動するフラッグフットボールの強豪チームがあるので、例えば行政の方でも盛り上げるべくそれ専用の施設を造るなどすればもっと盛り上がるし、小学校でも当たり前のようにその競技がされているというまちが作れるとよいのではないか。

【委員長】
立命館大学の女子陸上部も全国的に強豪チームなので、そういった部分もキャッチコピーが作れるとよいと感じる。

他いかがか。

【委員】
グリーンスタジアムがあるので、そういった施設を生かして、例えばプロ野球を呼んでくるような取り組みもひとつ。ＹＭＩＴでのプロチームの試合をするだとか、びわ湖マラソンであるとか大きな催しがあるといいのかなと思う。

【委員長】
びわ湖マラソンは今年度形を変えて復活する。大津を出発して烏丸半島をゴールとして、7,000 人が参加予定。皆で盛り上げていけるとよい。
他ご意見いかがか。

【委員】
草津市の施設はＹＭＩＴにしてもレイクスの本拠地には規模が足りず、グリーンスタジアムについてもプロ野球ができる条件には満たないということで中途半端だが、予定しているプールは自慢できるかと期待している。ただ、競技者でない人の利用には少し敷居が高いと感じる。飛び込みなどかなり深いプールで大規模な施設なので維持費の部分も心配である。

【委員長】
50 メートルプールが、4 つのエリアに仕切ることができて、底も高さがそれぞれエリア別に変えられるので競技者でない人にとっても敷居は高くないと思われる。維持費については、難しいところだが、ＰＦＩ方式を採用しているので、民間事業者の力でやりくりしてもらおうとする方式を採用されている。
ほかのご意見いかがか。

【委員】
ジュニアスポーツフェスティバルは今年も中止を決定したが、その代替として実業団の選手等に授業に来ていただく取り組みをしている。立命館の選手にも優秀な選手がたくさんいるので、子どもたちのあこがれるような選手がもっと出てくれればと応援している。

【委員長】
ありがとうございます。
他ご意見いかがか。

【委員】
びわ湖マラソンの話が先ほど出たが、私もスポーツ推進委員の立場で準備委員会の段階からかかわっている。既に 7,000 人の参加者が集まり、現在はボランティアを含めてスタッフを 3,000 人集めるという話になっている。全国からお客さんがお越しになるので、スポーツ関係の皆様からもお力添えいただきたい。

【委員長】
第 1 回目が非常に大切で、成功のカギは出発地点のトイレの充実はよく言われるが、それに加え 30 ㎞地点の食事とランナーを励ます応援がしっかりしていると、参加者の評価が上昇する傾向が見られる。ぜひ皆で頑張って盛り上げたいところ。
それでは、他にいかがか。

【委員】
小学生女子の体力について、健康推進委員の立場からは朝食の接種状況なども気になるところ。また、スポーツ少年団に入るというのはハードルが高いようにも思うので、学校の体育の授業以外にもう少しハードルの低い何かがあるといいかと考える。

【委員長】
非常に重要なところだと考える。実は今滋賀県の高等学校の女子のバレーチームが減少しており、その理由の大きなものはスポーツ少年団で厳しくされすぎたというもの。委員がご指摘のとおり、勝敗ではなく楽しむスポーツのチーム作りも大切かと思う。
他にないようであれば、最後の議題である本年度予算について事務局の説明を求める

事務局が、資料４に基づき説明。

【委員長】
ご意見がないようなので、進行を事務局にお返しする。

【事務局】
本日は貴重な御意見ありがとうございました。
それでは、閉会にあたり教育部長の増田よりご挨拶申し上げます。

【増田教育部長】
本日は、長時間にわたりご審議をいただきましてありがとうございました。

委員の皆様方には、大変貴重なご意見をいただきましたことを厚くお礼申しあげます。

いただきましたご意見は今後のスポーツ振興と健康づくり施策に生かしてまいりたいと思います。最後に、今月末で任期満了となられる委員の皆様におかれましては、本市のスポーツ推進に格別の御協力を賜り、改めてお礼申し上げます。また、引き続き委員を務めてくださる委員におかれましては、今後も変わらずの御支援、御協力をいただきますようお願い申しあげ、閉会の挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

閉会